The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	思ひおこすことども
Author(s)	伊藤, 茂雄
Citation	懐徳. 1961, 32, p. 86-88
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90363
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

思ひおこすことども

伊藤茂雄

○　東久邇成子さんの死をいたむ

東久邇成子さんのいまは悲しきご最後の報をうけたまわりただただ悲嘆の涙にくれているしだいである。天皇陛下第一皇女、元照宮さまとして私たち國民の間に親しまれ、ひとしく敬い慕われてきた成子さん。五人のお子さまたちを殘し、さだめしお心殘りのことだろうと拜察する。天皇陛下のお心づかいもさることながら、皇后さまは毎日のように、ご丹精のバラやボタンなどを病床にお運びになつたとのことである。ことにご臨終までの兩陛下のご看病のごようすを、いちいち手にとるように報道された產經新聞を讀み、いまさら兩陛下のおなさけに涙をとどめるすべもなかつた。せんだんは双葉より芳しとか。昭和三年、第三回の誕生日を迎えられたお姿は、目の中へ入れても痛くないほどのおかわいらしさ。いずれのお寫眞を拜見しても、ほんとうに天眞らんまんなお姿。――いまはなき東久邇成子さんの靈に心からなる默とうをささげまつるものである。

○　天沼、吉田兩先生を偲ぶ

盂蘭盆會の支度をしようと、佛壇の小引出しを開けたところ、罹災直後の昭和二十年四月二十一日附で、當時京都市上京區上塔ノ段町四九四に居られた天沼俊一先生から、私の避難先である豐中市櫻塚元町三丁目一〇八、府社原田神社高畠光明方へ頂いたお手紙、封筒には乃木大將肖像參錢郵便切手三枚と女子挺身隊員肖像の壹錢郵便切手一枚合計十錢が貼られ、裏には先生御愛用の花押で封印がしてあり、餘り懷しいので讀んで見ると、當時四天王寺が燒けたので、その設計者の先生に朝日新聞がインタービューした時の先生の御感想が書かれてあるの

で、次に原文のまま載せる。なほ吉田鋭雄先生から頂いた暑中見舞の書簡及び先生に特にお願して書いて頂き、爾來私が座右の銘として日夜實踐につとめている「司馬溫公御家之道」とを掲げて、以て兩先生御在世中の事どもを追憶し併せてその御冥福を禱る次第である。

拜復

御懇書ありがたく拜讀致しました。朝日の記事は實は潤色と誇張とのよせ集めで、私が記者に話した事はあんなではなかつたのですが、夫では新聞記事になりかねると見えまして可然色あげができたのでせう。颱風や雷火が原因で亡くなつたのではなく、兵火だから止むを得ません。ですから左程憤慨もしてゐませんのに、あの記事では頭から湯氣がたつてゐる樣で、少しばかり實際と違ひます。本人割合に平氣です。仕方がないとあきらめてゐます。本人よりかお寺の坊さんはほんとうにお氣のどくです。夫にしても其昔、俊一が只今住んでゐる家の近くの相國寺に、傳說によると高さ三十六丈七重大塔があり、應永六年供養、應永十年雷火燒亡とあります。事實かどうか調べてゐませんが、年表等にのつてゐるからほんとうでせうが、とにかく只今迄はただ文字通りに解釋をしてゐました、併し四天王寺の災害後、當時の相國の坊さん達や、其塔の建築に從事した技術家達の心中が多少忖度できる樣な氣がします。子供をなくした人が、ほんとうに他の子供を亡くした人に同情ができると同じ事かと考へます。

例い千萬年保存ができても、無限の「時」に比べれば物の數ではなく、又比較も困難です。生者必滅は所詮のがれる事はできません。ただ五年の生命は少し短かすぎましたのですが、これも前記相國寺の大塔に比べれば一年長いのでした。まづあきらめるべきでせう。

こうなると塔落成後間もなく示寂された當時の住持木下寂善大僧正が、一番お幸せで、燒失後一週間位で急になくなられた副住職森田潮應師が最もお氣のどくといふ事になります。何れも運命で致し方がありません。

× × ×

類燒御避難の由、洵に御不幸申上樣もありません。山本楢信さんも同じ樣な御不幸に遇はれたさうです。俊一は幸に今日迄無事でゐますが、いづれ近き將來、同一の運命にさらされる事と豫てから覺悟してゐます。ただ俊一は避難先がないので、いづれ市役所あたりの救護を受ける事でせう。

敬具

昭和二十年四月二十一日

拜復御見舞を賜はり御厚意萬奉拜謝候暑甚敷候處愈御

清勝之條爲頌爲慰候萎詩一章御答に代へ申候匆々頓首八月七日

立秋將近暑猶頑　剩看民生日苦艱
這裡吾儕須定脚　從容宴養對青山

北山逸士田雄學

拜覆暑甚しく候處愈御清勝之條拜承爲頌爲慰候さて過日は御見舞を辱ふし奉拜謝候迂生幸に無事圖書堆裡に沒頭風塵を忘れ居候に付御休神可被下候御寸暇御座候はば御來游被下度待入候時下暑猶甚折角御自玉是祈申候匆々

拜答

大阪府池田市本町三一八七
吉田　鋭　雄

凡爲家長必謹守禮法以御群子弟
乃家衆分之以職授之以事而責其
成功制財用之節量入以爲出稱家
之有無以給上下之衣食及吉凶之
費皆有品節而莫不均一裁省冗費
禁奢華常須稍存贏餘以備不虞止

右司馬溫公御家之道爲

伊藤茂雄君

北山逸士田雄書